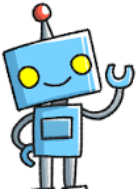


令和 8 年の読書感想文課題図書を紹介します！



小学校低学年の部

『まこちゃんとコトバロボ』 村上しいこ/作 佼成出版社



ドリルも宿題も大嫌いなまこちゃんは、ある日、国語のことならなんでも教えてくれる“コトバロボ”と出会う。コトバロボに宿題をまかせきりにするまこちゃんですが…。

『なにかいいことあった？』 ミーシャ・アーチャー/作 BL 出版



「なにかいいことあったかい？」おじいちゃんからそうたずねられたダニエルは、いいことをさがしに公園をめぐり…。毎日がうれしくなるような絵本。



『ララのまほうのことば』 グレーシー・ジャン/作 工学図書



暑い夏、ララは毎日、草や葉っぱに水をあげ、優しい言葉をかけていた。ところが、いつもどろんこで帰ってくるララは、お母さんに怒られ、外に出してもらえなくなってしまう…。

『たねはいのちのおわりとはじまり』 鈴木純/作 ブロンズ新社

たねの中には、いのちの一步目を踏み出すために必要なものが入っている。植物のいのちのみなもとである「たね」の神秘を紹介する写真絵本。



小学校中学年の部

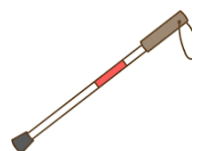
『まだまだここから』 宇佐美牧子/作 ポプラ社



水泳がちょっぴり得意な 4 年生の蓮に、スイミングスクールの特訓生になるチャンスが訪れた。でも、受かったのは弟の凜で…。「がんばる意味」を見つけていく、少年の気づきの物語。

『それからぼくはひとりで歩く』 アリシア・モリーナ/作 ほるぷ出版

ハイメは11歳の男の子。学校のクラスに視覚障害がある子は自分だけ。ある日、初めてひとりでバスに乗って帰ることになり…。ハイメの「見えない」日常を共に感じる物語。



『おいしいお米をつくりたい！』 谷本雄治/作 汐文社



小学生で農家に弟子入りし、米づくりを始めたゆうちゃん。害虫とのたたかい、おそいかかる台風をのりこえ、目標の300キロを達成できるのか？ゆうちゃんの挑戦と地域の人との交流を描く。

『宇宙でウンチ』 A.ボンドー＝ストーン C.ホワイト/作 あすなろ書房

人類は最新の科学技術を駆使し、宇宙への冒険をおしすすめてきた。だが実は、科学のチカラでは解決できない大きな問題が残されていた…。宇宙トイレの秘密に迫るユニークな絵本。



小学校高学年の部

『ポジション！』 高田由紀子/作 岩崎書店



スポーツは苦手なのに、「背が高いから」という理由だけでミニバスケットに誘われた5年生の芽吹。友達ができるかもと入団を決意するが、運動神経のなさで迷惑をかけ…。自分の居場所を模索しながら成長する物語。

『リヒト！』 イノウエミホコ/作 文研出版

「理人、最後に伝えておきます」祖母の節さんがぼくに託した、中身のわからない封筒。節さんが伝えたかったことは何？疑問を抱えながら、ぼくは「苦手なあいつ」とドイツに向かうことになって…。



『ミシュカ』 エドワルド・ファン・デ・フェンデル/作 静山社



難民になった家族がようやく新しい国で見つけた幸せ…。9歳の少女ロヤが、ウサギのミシュカと過ごす楽しい日々を描きながら、大変だった旅や、新しい国で受ける差別といったつらさも伝える。

『キミの一步アフリカ』 味田村太郎/作 あかね書房

南アフリカに赴任した記者が、アフリカ各国の食糧不足や貧困、野生動物の保護といった社会問題を背景に、折り紙、チェス、環境活動などの取り組みを通じて、子どもたちが力強く生きる姿と希望を描く。

